日経平均株価
２万４３２５円２３銭
▲２１９円９５銭（前日比）
ＴＯＰＩＸ
１６５８．４９
▲８．５５（前日比）

株式市場新聞
www.marketpress.jp
2020
11/9
月曜日
発行元　株式会社 株式市場新聞社
〒541-0052　大阪市中央区安土町１－６－２２－４１７号
TEL 06-6105-1904　FAX 06-7635-7861
marketpress.jp

好調際立つコンテンツ

鬼滅の刃爆発的ヒットに続くのは？

第２四半期発表は前半戦を通過したが、改めて好調が浮き彫りになったのがアニメやゲームといったコンテンツビジネスだ。その代表例は**ソニー**（６７５８）の上方修正で、これは子会社のアニプレックスが製作する「鬼滅の刃（やいば）」の爆発的ヒットも一因に挙げられる。ソニーはプレイステーションを含めたゲームなど巣篭りの生活スタイル定着による効果が大きく、この動きは今後も続く可能性が高く、コンテンツ関連ビジネスの好業績銘柄は引き続き注目できよう。

劇場版「鬼滅の刃 無限列車編」の興行収入は公開から１０日間で１００億円突破

ストリーミングで視聴

ソニーの好決算の一因となった映画「劇場版 鬼滅の刃 無限列車編」の興行収入は公開から１０日間で１００億円を突破したが、この鬼滅の刃は原作コミックから深夜ＴＶアニメから人気に火が付き、その後、映画で爆発的ヒットとなるというメディアミックスによる相乗効果が収益を押し上げた。劇場版アニメでは今後期待されているのは来年にも公開が予定されている「エヴァンゲリヲン新劇場版」の最終章で、海外も根強いファンが多い同作が公開されれば、配給元となる**東宝**（９６０２）と**東映**（９６０５）を含めて話題になる可能性が高い。

ゲームコンテンツを活用したメディアミックスでは、モンスターハンターを題材にしたハリウッド映画の製作が決定した**カプコン**（９６９７）やマリオを題材にしたテーマパークが国内外で開園する**任天堂**（７９７４）の決算も好調だ。映画を観るには劇場に出向く必要があるが、鬼滅の刃やゲームに共通するのは、その根底に自宅で楽しめるコンテンツであること。ゲームはダウンロード販売で利益率が向上しており、アニメについてもタブレット端末やスマホで視聴できるストリーミングが定着している。このストリーミング代表例が**ＵＳＥＮ-ＮＥＸＴ ＨＯＬＤＩＮＧＳ**（９４１８）傘下の**Ｕ-ＮＥＸＴ**や**ＮＴＴドコモ**（９４３７）運営のｄアニメストアで、これらではＴＶ版鬼滅の刃の視聴も可能だ。

日経平均日足チャート

今週の動意銘柄

KDDIが大幅続伸

2Q増益で自社株買いに提携も

連休明け2日、KDDI（9433）が大幅続伸。21年3月期第2四半期累計の連結決算は営業利益5887億6300万円（前年同期比6・4％増）と増益を確保。併せて発行株式の3・65％にあたる8400万株、2000億円が上限の自己株取得枠を設定した。取得期間はきょうから来年5月31日まで。

また、**トヨタ自動車**（7203）との業務資本提携も発表。トヨタを割当先とする第三者割当で1830万1600株の自己株式を処分。調達資金約521億9700万円は車に関わる通信事業などの運転資金に充当する。

フジクラ通期大幅増益

4日、**フジクラ**（5803）が急伸。未定としていた21年3月期の業績予想を発表、通期連結営業利益で1110億円（同3・3倍）と大幅増益を見込んだ。情報通信事業部門において戦略商品である超細径高密度光ケーブルが欧米顧客向けを中心に伸びている。

GSIクレ営業益3・7倍

GSIクレオス（8101）が急伸、年初来高値を更新した。21年3月期の第2四半期累計決算を発表、連結営業利益で23億1000万円（前年同期比3・7倍）と大幅な増益となった。ホビー関連商材は巣ごもり需要の取り込みと海外市場拡大に向けた取り組みの強化により、大きく伸びており、通期予想の21億円（前期比76・2％増）は上振れ期待が高まる。

ヒロセ電利食い売り

ヒロセ電機（6806）が急反落。21年3月期の業績予想について、連結営業利益172億円を215億円（前期比5・6％増）へ上方修正したが利食い売りに押された。スマホ、自動車、コンシューマ機器向けが予想を上回る。

NTTデータは急伸

NTTデータ（9613）が急伸。21年3月期第2四半期の連結決算は、営業利益638億2100万円（前年同期比0・1％増）と微増益で着地したが、コンセンサスを上回り直近3カ月の7～9月期は9・5％増と2ケタ近い増益になった。

テクマト予測下回る

テクマトリックス（3762）が一時ストップ安。未定としていた21年3月期通期の連結業績予想について、営業利益33億円（前年同期比9・0％増）と発表したが、市場予測の37億3000万円を下回り、失望売りを浴びた。

スミダコポ大幅増額

スミダコーポレーション（6817）が急伸。20年12月期通期の連結業績予想について、営業利益2億2000万円の赤字～5億6000万円の黒字から13億円の黒字（前期比63・3％減）に大幅に上方修正した。車載関連需要が持ち直し、業務プロセス見直しにより収益性も改善。3Q累計は1億1600万円と2Q累計の12億1400万円の赤字から黒字に転じた。

正直じいさんの株で大判小判

主力株は利益確定想定

6日の東京市場は日経平均で18年10月に付けたバブル崩壊後の高値を上抜き、29年ぶりの高値水準に浮上しました。前日までの大幅な上昇の後で利益確定売りが出やすく、円が強含んでいることから小安く始まりましたが、下値は強く上げに転じたあとは漸次水準を切り上げました。相場の腰の強さが先物へのショートカバーを誘発しているようです。

出遅れ株や海運など景気敏感株が買われる一方、グロース系の中小型株には目先の利食いが出ました。ただ、推奨銘柄ではウエストホールディングス（1407）やレノバ（9519）のリー（2413）などはしっかりです。1部の主力は急ピッチの上昇から利益確定の動きも想定しています。引き続き決算発表スケジュールをにらみながらグロース株に買いのタイミングを計りたいと思います。

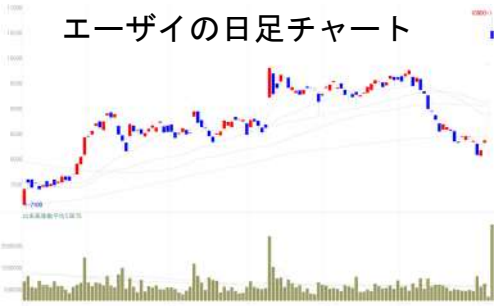
花咲翁

エーザイはストップ高

認知症薬早期承認期待高まる

エーザイ（４５２３）がストップ高。５日、米バイオジェンと共同開発中のアルツハイマー型認知症治療薬「アデュカヌマブ」について、米食品医薬品局（ＦＤＡ）が「有効性を示す十分な証拠を提供した」との見解を示したことを受け、早期承認へ期待が高まった。アルツハイマー病の進行を遅らせる初めての治療薬となり、前日の米国市場でバイオジェン株は一時４％上昇した。

エーザイの日足チャート



リコー減額で大幅赤字

リコー（７７５２）が急反落、年初来安値を更新した。２１年３月期通期の連結業績を下方修正、営業利益を１００億円の黒字から４９０億円の赤字（前期７９０億４０００万円の黒字）へ一転、大幅赤字を予想した。新型コロナ感染症による影響が長期化、オフィスプリンティング事業を中心にさらに厳しさが増すと見ており、年間配当も２６円から１５円に引き下げた。

環境関連2銘柄急反発

ウエストホールディングス

ウエストホールディングス（１４０７）とレノバ（９５１９）の環境関連が急反発。前日のトランプ大統領優勢から一転してこの日はクリーンエネルギー普及を提唱するバイデン氏の大統領選勝利の可能性が高くなってきたことから、買い戻しの動きとなった。

アサックス立会外分売中止

アサックス（８７７２）がストップ高。１１月１３日まで予定していた立会外分売中止を発表しており、需給不安が後退した。１０月２８日の適時開示後、１１月４日まで株価が８・９％下落しており、分売人から中止の申し出を受けた。

ヤマシン期待に届かず

ヤマシンフィルタ（６２４０）が急落。２１年３月期通期の連結営業利益予想を１２億３０００万円から１３億円（前期比６７・２％増）へ増額したが、の期待値に届かず失望売り。

コロナショック暴落は１０年に１度の買チャンス・門外不出の大伸特選銘柄で儲けて下さい

(実績40年)自信の的中率・最近の底値買指示銘柄例(よくお調べください)(11月2日)

◎住友鉱・三井金の上昇に比して出おくれ

（５７１１）三菱マテリアル ○○○○円目標断固買

日本郵船 →1200円前後買→2030円に上昇中　アルプス →900円買前後買→1770円に上昇中

東海カーボン →800円買→1298円に上昇中　三井金属 →1800円買→2792円に上昇中

コ マ ツ →1600～1700円買→2551円に上昇中　ツ ム ラ →2400～2500円買→3350円に上昇中

◎株は論より証拠・上記の如く大幅高予想銘柄ズバリお知らせします(1回無料)(成果確認)

インターネットでの資料請求はここをクリック！　大伸経済研究社

金融商品取引業者 登録番号 東海財務局長(金商)第45号(一般社団法人)日本投資顧問業協会会員

電話058-243-5690 (午前8:30～11:00)
〒501-3144 岐阜市芥見大般若2-25-2

～決算情報～

荒川化学工業

高付加価値品が利益下支え

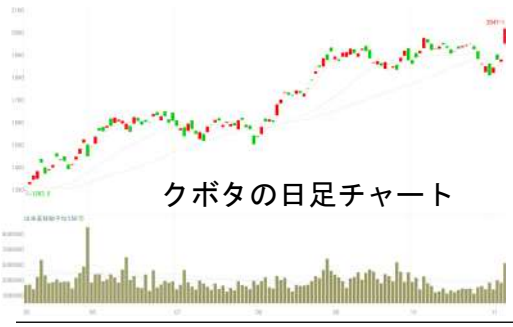
第2四半期光硬化型樹脂が伸びる

荒川化学工業（４９６８）の２１年３月期第２四半期累計の連結決算は、売上高３２２億２０００万円（前年同期比１１．９％減）、営業利益は９億６９００万円（同５．３％増）、純利益で７億１０００万円（同５６．４％増）となった。製紙薬品や粘接着事業などで新型コロナに絡む需要低下の影響を受けたが、その一方で大阪取引所での決算発表の席上、**宇根高司社長**は「高付加価値の電子材料用途の伸びが利益を支えている」とし、コーティング事業で５Ｇ関連向けに機能性コーティング材料用の光硬化型樹脂が好調に推移した。

通期は売上高で７３０億円から６７５億円（前期比７．５％減）、営業利益で３２億円から２７億円（同　４．９％増）、純利益で２１億円から１８億円（同３．９％増）修正した。

クボタ上方修正で新値

週末６日、クボタ（６３２６）が急伸、年初来高値を更新した。２０年１２月期通期の連結業績予想を上方修正したことが好感された。売上高を１兆７８００億円から１兆８３００億円（前期比４・７％減）、営業利益を１５００万円から１７００億円（同１５・７％減）へ。新型コロナ感染拡大による低迷から回復が進み、東南アジアなどの雨季の天候が良好だったことから、国内外で売上高が計画を上回る見込み。


クボタの日足チャート

JAGはMOB

日本アジアグループ（３７５１）がストップ高。ＭＢＯを発表したことで、ＴＯＢ価格６００円にサヤ寄せするかたちで水準を切り上げた。買付期間は１１月６日から１２月２１日までで全株式を取得。ＴＯＢ成立後は上場廃止となる。

今週の動意銘柄

UTG増額も利食い

ＵＴグループ（２１４６）が４日ぶり反落。２１年３月期の業績予想について、通期連結売上高で１０３８億円から１０８８億円（前期比７・５％増）へ、営業利益で４１億円から６０億円（同２５・４％減）へ上方修正したが利益確定売りに押された。最も影響のあったマニュファクチャリング事業を中心とする顧客工場の稼働停止による休業などは、第１四半期をピークに減少している。

直近IPO2銘柄S高

Ｒｅｔｔｙ（７３５６）、**カラダノート**（４０１４）の直近ＩＰＯ２銘柄がストップ高、値幅取り人気を集めた。Ｒｅｔｔｙはグルメプラットフォーム運営で、公開価格１１８０円を３７％上回る１６１１円で初値をつけ、公開価格を割れることなく一気に上値追い。カラダノートは妊娠育児ママ層の企業へのプロモーション支援で、公開価格４５０円の４・２倍の１８９０円で初値をつけ、初値を割る場面もあったが、その後は上値追いとなった。

転ばぬ先のテクニカル

2万4000円台の壁

大接戦となった米大統領選挙もほぼ大勢を決した様相であり、バイデン大統領・議会上院共和党・議会下院民主党といったことになりそうです。捻じれ議会は解消されず、しかも事前のトリプルブルー予想には程遠く、民主党は議席を減らすことになりました。となると２０２２年の中間選挙での大勝を目指し、増税や規制強化などの政策は暫し温存され、コロナ禍の経済対策は捻じれ議会のために民主が共和に擦り寄ることで規模縮小による早期決着を狙うことになりそうです。

これは株式市場にとってはポジティブな方向であり、先週の日経平均は４連騰となりました。２０１８年１月、同年１０月、そして本年１月と２万４０００円台が壁として立ちはだかりました。今週はこの巨大な壁を突破できるのかどうかに注目です。ブレイクできれば大きな空が広がることになります。

日々勇太朗

～決算情報～

ＴＯＡ

コロナ対応と効率化推進

2Q赤字転落も通期黒字予想据置く

ＴＯＡ（６８０９）の２１年３月期第２四半期累計（４月１日～９月３０日）の連結決算は、売上高１７６億６６００万円（前年同期比１４．９％減）、営業損益３２００万円の赤字（前年同期１１億６７００万円の黒字）、最終損益１億５５００万円の赤字（同６億７０００万円の黒字）で着地した。新型コロナ感染拡大の影響を受け、海外を中心に売り上げが落ち込み赤字転落を余儀なくされた。

遠隔動作状況確認や設定調整、注意喚起の自動放送などのコロナ対応、世界５大地域でマーケティング効率を高めることにより収益をテコ入れする方針で、通期は売上高４０５億円（前期比１０．１％減）、営業利益７億円（同７９．８％減）、最終利益６億円（同７１．０％減）と従来予想に変更はなく、年間配当２０円（前期２６円）は据え置いた。

タキロンシーアイ

第2四半期は1％営業増益

巣ごもり需要と大口ハウス物件受注

タキロンシーアイ（４２１５）の２１年３月期の第２四半期累計（４～９月）決算は、連結売上高で６４１億７５００万円（前年同期比９．３％減）、営業利益３６億７５００万円（同１．０％増）、純利益２０億８６００万円（同１１．２％減）となった。住設建材事業では、主力のポリカーボネート製採光建材と住設資材において、コロナ禍における巣ごもりによりホームセンターでの需要は増加したが、新設住宅着工戸数の低迷により減収。アグリ事業は、大口のハウス物件受注があったものの、前年の中部・関西圏での風害需要の反動を受けている。

通期は売上高１３２０億円（前期比５．３％減）、営業利益７０億円（同５．１％減）、純利益４０億円（同６９．４％減）と従来予想を据え置いた。

六甲バター

神戸工場全面稼働で増収

3Q給食、家庭向け堅調も償却負担

六甲バター（２２６６）の２０年１２月期の第３四半期累計（１～９月）の単独決算は、売上高３９８億１１００万円（前年同期比２．４％増）、営業利益１１億４３００万円（同３９．６％減）、最終利益４億４１００万円（同５１．２％減）と増収減益ながら通期計画に対しては順調に進捗になった。

新型コロナ感染拡大の影響で外食向けは低迷したが、学校の再開により給食向け需要が回復、家庭内需要も堅調だった。基幹工場の神戸工場が全面本稼働したことで売り上げは伸びたが、減価償却費負担が収益圧迫している。

通期は売上高５５５億円（前期比２．９％増）、営業利益１４億円（同３７．３％減）、最終利益６億８０００万円（同３０．６％減）と従来予想に変更はなく、期末一括配当２０円を据え置いた。

クボタ

今12月通期予想を上方修正

コロナから回復進み天候も追い風

クボタ（６３２６）は２０年１２月期通期の連結業績予想を上方修正した。売上高を１兆７８００億円から１兆８３００億円（前期比４．７％減）、営業利益を１５００万円から１７００億円（同１５．７％減）、最終利益を１１００億円から１２５０億円（同１６．１％減）へ。新型コロナ感染拡大による低迷から回復が進むとともに、東南アジアなどの雨季の天候が良好だったことから、国内外で売上高が計画を上回る見込み。想定為替レートは１ドル１０７円、１ユーロ１２０円。年間配当は３６円を継続する。

第３四半期累計の連結決算は、売上高１兆３５６７億９４００万円（前年同期比７．１％減）、営業利益１２９８億８７００万円（同２１．８％減）、最終利益１０６１億４００万円（同１８，６％減）で着地した。

～決算情報～

英　和

定期修理リプレイスは堅調

営業制限や設投控えで2Q減収益

英和（９８５７）の２１年３月期の第２四半期累計（４～９月）決算は、連結売上高で１６２億３２００万円(前年同期比４．１％減)、営業利益で４億５７００万円(同２９．４％減)、純利益で２億９９００万円（同３２．８％減）となった。石化業界やプラント・エンジニアリング業界向けにコンビナートエリアでの定期修理に伴うリプレイス需要は堅調に推移したが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から対面営業が制限されたうえ、設備投資に対する慎重な姿勢を受け、鉄鋼業界、自動車関連業界、建設機械業界向けを中心に販売が減少した。

通期は売上高３５０億円(前期比７．１％減)、営業利益８億１０００万円（同５２．６％減)、純利益５億３９００万円（同５２．２％減）と従来予想を据え置いた。

東　レ

今3月期通期予想を増額

繊維、機能化成品など出荷想定上回る

東レ（３４０２）の２１年３月期通期の連結業績予想について、売上収益を１兆８４００億円から１兆８６００億円(前期比１１．１％減)、事業利益を７００億円から８００億円（同３６．３％減)、最終利益を４００億円から３４０億円（同５９．６％減）に修正した。繊維、機能化成品を中心に出荷が想定を上回り、費用削減効果も表面化、減収減益ながら売上げ、利益が計画を上振れる。最終利益を引き下げたのは航空機需要低迷に伴なう収益性低下により、米国炭素繊維子会社で減損損失２４０億円を計上したため。

第２四半期累計（３～９月）の連結決算は、売上収益８５６０億６９００万円（前年同期比１９．２％減)、事業利益３４０億９６００万円（同５２．３％減)、最終利益４４億６６００万円（同９１９．２％減）で着地した。

11月21日(土)第5回 株式セミナー in大阪

～アメリカの大統領選後に新たな波動が生まれる～

年末から来年に最も上昇する 銘柄の選び方とテクニック

主催：株式市場新聞　申込はTEL06-6105-1904またはinfo@marketpress.jp まで

時間：１４時～１６時　参加料：無料　先着２０名　マスク着用必須!

誰でもチャートを見れば簡単に銘柄を探せるワザ

これから上昇する特選銘柄5銘柄を教えます!!

数々の株式コンテストで優勝した岡山憲史さんが登壇

岡山憲史氏(株式会社マーケットバンク代表)１９９９年２月日本初の資産運用コンテスト「第一回Ｓ１グランプリ」約１万人の参加者の中から優勝のほか、多くのコンテストで優勝。１カ月間の３銘柄合計パフォーマンス１５５％と断トツ。週刊現代や週刊ポスト、ネットマネー、月刊カレントなど幅広く執筆活動を行い、個人投資家に投資情報サービスを提供。

御堂筋線本町駅　12番出口　徒歩５分

会場：Ｄ－ＳＰＯＴ－ＣＯＭ本町１Ｆセミナールーム

大阪市中央区南久宝寺町3丁目2-7　第一住建　南久宝寺町ビル　【TEL】06-6252-8811

＊セミナー参加者に大変便利なポケットサイズの2020年版最新カレント経済ノート「主要経済指標」定価1,000円を参加者全員に差し上げます。

潮流

株式市場は新たな領域へ‼

過剰流動性崩れない限り上昇続く

岡山 憲史氏（株式会社マーケットバンク 代表取締役）のプロフィール
１９９９年２月日本初の資産運用コンテスト「第一回Ｓ１グランプリ」にて約１万人の参加者の中から優勝。直近では２０１７年１月に始まった夕刊フジ主催の「株・１グランプリ」において優勝。１カ月間における３銘柄の合計パフォーマンスでは１５５％と断トツの結果。週刊現代、週刊ポスト、夕刊フジ、ネットマネー、月刊カレントなど幅広く執筆活動を行う。現在、個人投資家に投資情報サービスを行う。http://marketbank.jp

marKet bAnk

１１月３日に行われた米大統領選はバイデン元副大統領の圧勝とはならず、日本時間５日になっても僅差で結果は出ていない。歴代大統領選で今回は史上最高の投票率となっている。それだけ国民の関心が高い選挙なのだ。

郵便投票も相当な数なのでそれらの開票を待つのは当然だ。しかし、トランプ大統領は「民主党のバイデン候補を破り、勝利した」と発表している。このような無責任で自己中心的な現大統領でもアメリカの約半数の国民はトランプ氏を支持している。一方、バイデン氏は７７歳と高齢でしかも、知的能力を失っている発言を頻発している。７月には集会で「アメリカでコロナによって、１億２０００万人が死んだ」と叫び、１１月に「私は上院議員選挙に挑んでいる」と、また口を滑らせた。集会で誤ってドナルド・トランプ大統領を、「ジョージ・トランプ」と呼んで、脇にいた夫人が「あなた、ドナルドよ」と注意する声がマイクに入った。

判断力が衰えているために、副大統領候補のハリス上院議員と「共同大統領」を勤めることとなろう。来年の１月２０日の新大統領就任式の時には７８歳となり、アメリカ人の平均寿命と並ぶ。バイデン氏が大統領になれば１～２年後に辞任する可能性すらある。トランプ氏も７４歳で老人対決だ。米国も日本同様政治家の人材不足である。

一方、株式市場は米大統領選の結果が遅れようとも日米共に大幅上昇となっている。１１月２日～３日までの３日間でダウ平均は１，３４４ドルも上昇。日経平均は２日～４日までの３日間で１，１２８円上昇した。米国大統領選でトランプ大統領とバイデン氏のどちらが勝とうが、接戦で結果が先送りされようが関係ないということである。

つまり、株式市場というのは大統領や総理大臣の人間性を評価するのではなく、資金をどれだけ国民や社会に費やしているか、政府支出の規模で動くのである。過剰流動性相場の環境が崩れない限り、今の株高は続くのだ。日経平均が２万４０００円台まで上昇でも騰落レシオは割安で過熱感がない。アベノミクス後の高値である２万４２７０円を捉え、新たな領域に入る。

潮流銘柄は**Ｍ＆Ａキャピタルパートナーズ**（６０８０）、**Ｊストリーム**（４３０８）、**サイバーリンクス**（３６８３）。

政府支出の規模で動く

敏腕先物ディーラー

ハチロクの裏話

底堅い展開も短期調整か？

上値抵抗ライン上限で正念場

先週の日経平均は前週末比約１３４８円高（△５・９％）となり、終値では２万４３２５円とバブル崩壊後２９年ぶりの高値更新となった。米国の大統領選挙は執筆時点でまだ決まっていないが、先週の上昇はどちらになってもイベントリスク通過の買いで上昇した。

２０１６年の米国大統領選挙を経験している投資家は恐らく選挙前に一旦ポジションを調整していただろう。だが大半がヘッジなどしたために下がらぬ相場に先行した買戻しが買いを誘発して上昇に拍車を掛けた。要はあの２０１６年のアルゴリズム取引の強引な乱高下をビビり過ぎたということだ。どちらになるかもわからない状態でのこの大幅上昇を誰が予想できたか。ましてや新型コロナウイルス拡大の第３波が欧米で来ていることに加え、円高が進行している中で日本の株価はバブル後の高値を更新。やはり相場は難しいと改めて実感した。

米国はねじれ議会になりそう
（アメリカ合衆国議会議事堂）

米国議会は上院は共和党、下院は民主党とねじれ議会になりそうだが、これも増税などの措置が遅れるなど本来なら悪材料も好材料として捉えられているらしい。上昇の理由なんていい加減である。相場の上昇は買戻しが中心と考えられるが、選挙結果が判明した時、出尽くしとなるのか、さらに上値を追いに行くのかが注目される。相場は結果がすべて。チャート的には一目均衡表の日足でも週足でも強気シグナルが拡大、さらに転換線（２万３６６９円処）、基準線（２万３６６９円処）とも上向い上昇を示唆している。当面は底堅い展開が予想されよう。

しかし、バンドが拡大するボリンジャーバンドでは△３σ（２万４３７５円処）に達しており、一旦調整も十分考えられる。さらに金曜日の高値２万４３８９円は６月１６日の高値２万２６２４円を起点とする上値抵抗ラインの上限でもあり、ここを抜けてくるかどうかが正念場になってくる。騰落レシオは９４・４％と過熱感はないものの「右肩上がりのＢＯＸ上限」に達しているため、今週は高値揉み合いの中の短期調整に入ると思われる。今週は１１月ＳＱ週でもあるため動きやすい週ではあるが、ここからの上昇には短期調整狙いで売りから入りたい。

相場レンジは２万３９００円から２万４６００円を想定する。

（ハチロク）

日経225先物の日足チャート

ハチロクのプロフィール

証券アナリストから証券会社の法人部長を経て、２２５先物オプションディーラーに転身。アナリスト時代に培ったテクニカルやファンダメンタルズなどの分析力を駆使、リーマンショックなどの暴落時も乗り越えて西日本における２２５先物オプションディーラーとしてはトップクラスの運用実績を誇る。

星野三太郎の株街往来

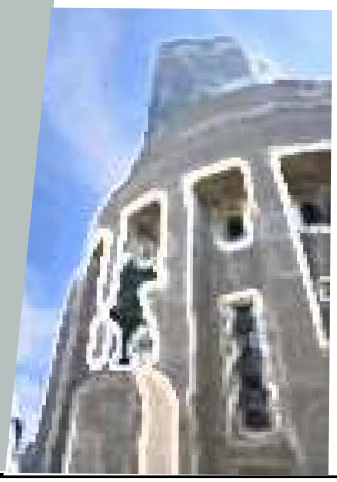
～生活スタイルは元に戻らない?～

欧米では新型コロナウイルスの感染拡大が止まらない。春先が感染のピークと見られていただけにフランスやドイツでの再ロックダウンの動きは、特に飲食などサービス業に携わっている方への影響打撃は改めて大きいと感じる。

一方、欧米に比べて日本の感染数は低水準が続いている。他国から見ればGoToキャンペーンという人の移動を促す施策を政府が行うこと自体がお気楽に映るだろうが、キャンペーン後に感染数が劇的に増えた事例は発生していないので、感染防止の取り組みは国民に定着したことも大きいと思う。

ただ、この数週間は入場制限が緩和されたプロ野球の試合で甲子園と京セラドーム大阪に行く機会があったが、藤川球児の引退や大山の本塁打争いがあるにも関わらず空席が目立ったのには驚いた。知人からはテーマパークも想像上に閑散ダヨという話を聞いた。半面、ソニーやカプコン、コーエーテクモなど自宅で遊べるゲームは絶好調だ。

今後、新型コロナ感染者数が更に減少したとしても、一度変わった生活スタイルが元に戻らないかなと感じる。



企業レター

クボタファームで実証実験

クボタ

昆虫の力を活用した有機肥料

クボタファーム おれん家農園

クボタ（６３２６）とムスカ（東京都中央区）は、実証農場「クボタファーム おれん家農園」（長野県上田市）で、独自のイエバエを用いて生産した有機肥料の有効性検証に関する実証実験を開始した。

この実験ではブロッコリーを対象作物とし、生育状況や土壌環境等のデータを収集し、有機肥料の有効性を検証する。ムスカが開発したシステムは、１２００世代に及ぶ選別交配を重ねたサラブレッド化イエバエの幼虫に家畜排せつ物などの有機廃棄物を消化させて有機肥料に転換し、その幼虫自体も乾燥させて飼料化するというもの。

家畜排せつ物は屋内でイエバエの幼虫の消化酵素によって約１週間という短期間で分解され、有機肥料化。長期間による発酵処理が不要で悪臭の拡散防止や温室効果ガスの削減効果などが期待される。

New product

キリンHD　期間限定で全国発売

キリン 本搾りチューハイ冬柑

冬柑（期間限定）

キリンホールディングス（２５０３）グループのキリンビールは、“たっぷり果汁とお酒だけでできている、リアルな果実ありのままのおいしさを楽しめるチューハイ”がコンセプトの「本搾り」ブランドから、「キリン 本搾りチューハイ 冬柑（期間限定）」１２月８日から全国発売する。

それぞれの果実の特長を生かす「本搾り」ならではのブレンド技術で、ゆず・すだち・かぼすを中心とした和柑橘の上品な香りとほのかな苦味や、ギュッと搾った５種の柑橘（グレープフルーツ、ゆず、レモン、すだち、かぼす）でさっぱりとした味わいに仕上げている。３５０ｍｌ缶、５００ｍｌ缶を用意している。

記者の視点

相場見通し

一旦落ち着く展開

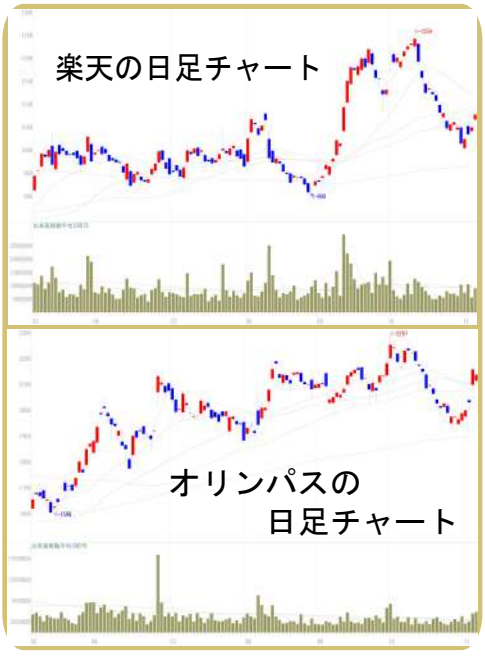
第2四半期決算発表は終盤

11月第1週の東京市場は日経平均ではもみ合いを突破、2万4000円台に乗せ、上放れの動きとなった。注目されていた大統領選の開票では当初はトランプ大統領優勢からバイデン氏が急激に追い上げて、選挙人票の過半数270票獲得に王手をかける状況になっている。開票状況が急変する状況でも株価上昇が続いていたことから、マーケットは勝者がどちらになるせよ今年最大のイベント通過が好材料になったということだろう。

指数は急ピッチで上昇したが、今週末のオプションSQが接近することで、一旦は先物主導の動きも落ち着くだろう。

大統領選については、トランプ大統領は各州で訴訟を起こしており、泥沼化の様相を呈している。これに関してもマーケットは織り込み済みだが、次期大統領が決まらぬまま追加経済対策を打てない状況が続けば、新型コロナウイルスの感染拡大リスクが高まり、マーケットは現実を直視する場面がくるかもしれない。現状は強い流れに乗る状況だが、ある程度利益確定をしながら、押し目を待つ冷静な行動が必要だろう。

イベント的には12日に米10月消費者物価などの発表があるがマーケットの動きを左右する経済指標の発表はなく、1日の中国での大規模ネット通販セール「独身の日」が話題になるかもしれない。国内では第2四半期発表が終盤に入る。12日の**楽天**（4755）や13日の**オリンパス**（7733）などの主力系に加えて、今後はグロース系の発表も増えてくることから、個別での値動きにも注視したい。



今週のスケジュール

- ・6日　米10月雇用統計(22:30)
- ・7日　中国10月貿易収支
- ・9日　9月景気動向指数(14:00)
  日銀金融政策決定会合「主な意見」
- ・10日　10月景気ウォッチャー調査(14:00)
  中国10月生産者物価、消費者物価(10:30)
  独11月ZEW景況感指数(19:00)
- ・11日　10月マネーストック(8:50)
  10月工作機械受注(15:00)
  中国の大規模ネット通販セール「独身の日」
- ・12日　9月機械受注(8:50)
  10月都心オフィス空室率(11:00)
  米10月消費者物価(22:30)
  米政府、動画配信アプリTikTokの利用全面禁止措置の期限
- ・13日　米10月生産者物価(22:30)

編集後記

米大統領選の結果を待たずして見切り発車になった。開票当初はバイデン優勢でトリプルブルー、トランプ優勢が伝わると早期決着、バイデン当確が確実になるとねじれ議会ながら、財政支出抑制で金利低下といいとこどりのシナリオ。米国株は連騰し、日経平均もつれ高で29年ぶり高値に浮上している。どちらが大統領になろうと追加経済対策がどうなろうと、結局、空前の緩和マネーが市場を支えているのだろう。

当面はFRBのスタンスだけを注意していればいいということだろうか。

【ご注意】株式市場新聞は投資の参考になる情報提供を目的としており、投資の勧誘をするものではありません。記事には業績や株価、出来事について今後の見通しを記述したものが含まれていますが、それらはあくまで予想であり、内容の正確性、信頼性、予測の的確性を保障するものではありません。当紙が掲載している情報に基づく投資で被られたいかなる損害について、当社と情報提供者は一切の責任を負いません。投資についての決定はすべてご自身の判断、責任でお願いいたします。